

手術ありの患者の肺血栓塞栓症の発生率 (リスクレベルが中リスク・高リスク)

指標の説明と定義

肺血栓塞栓症は、呼吸困難や胸痛、動悸など他の疾患でも現れる症状を呈するため、鑑別診断が困難であるといわれています。このため、症状が乏しく発見が困難であるため、原因不明とされたり、解剖して初めて肺血栓塞栓症が発見されることがあります。本指標は、「手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率(リスクレベルが中リスク・高リスク)」に対して、その結果を表すアウトカム指標です。しかし、適切に予防対策を実施しても、肺血栓塞栓症の発生を未然に防ぐことができない場合もあります。

分子 分母のうち、当該入院期間中に肺血栓塞栓症を発症した患者数
分母 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」または「高」の手術を施行した退院患者数

指標の種類と値の解釈

プロセス

グラフ

